

学校教育評価 令和3年度1学期アンケート結果、及び 昨年度7月との比較

アンケート実施：令和3年7月（数字は%）

調査人数：全校人（低学年 111/119 人・高学年 116/126 人）

保護者アンケート児童数配布 回答数 187 人（家庭数戸 173）

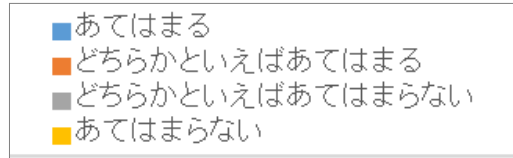
教職員 20 人

評価：A（あてはまる）

B（どちらかといえばあてはまる）

C（どちらかといえばあてはまらない）

D（あてはまらない）



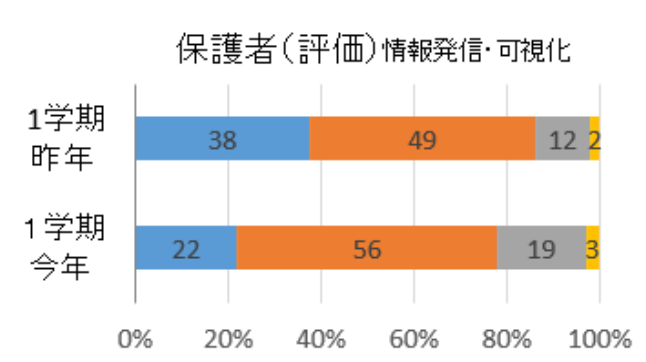
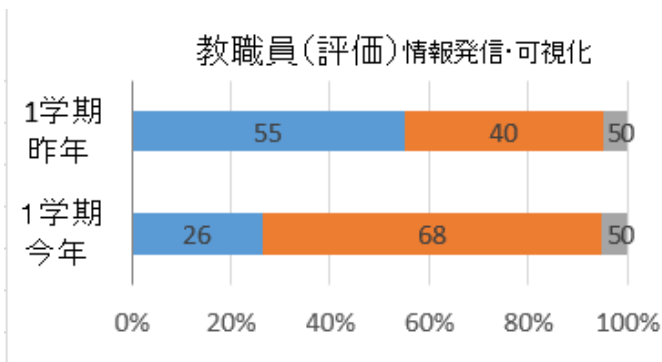
【開かれた学校づくり】

・学校生活や学習状況等について、積極的に情報発信し、教育活動の可視化を図る。

教職員（問1）学校からの家庭や地域への情報発信はよくできている。

保護者（問1）ホームページやメールなどにより、学校の様子がよくわかる。

			A	B	C	D		達成 状況
教職員	A：A+Bが90%以上 C：上記以外	B：A+Bが70%以上	問1 26	68	5	0	A	A
保護者	A：A+Bが90%以上 C：上記以外	B：A+Bが70%以上	問1 22	56	19	3	B	



【記述欄】

- ・HPを更新した時は「〇年生のHPを更新しました。」等メールでお知らせしてほしいです。せっかくHPとメールがあるのだからもっと活用してほしいと思いました。※ちなみにこども園ふたばはメールでお知らせとURLが送られてきます。
- ・HPを常にチェックしないので、正直なところ、ほとんど分かっていないことが多いです。配信などで、更新情報を教えてもらえたら見ると思います。
- ・HPの3年生の更新が少なくさみしく思っています。先生方もお忙しいと思しますので、増やしてほしいということではありません。
- ・学年通信がなくなったり、複数担任になったりしたので学校の様子が分かりません。
- ・学年の様子をHPにこまめにアップして下さっているので、学習や生活の様子がよく分かってありがたいです。個性豊かな子ども達をまとめるのは大変だと思いますが、先生が試行錯誤しながら学級づくりに努めて下さっているのだなあ・・・と、子どもの話から伝わってきます。いつもありがとうございます。
- ・HPに写真や様子をよく上げてくれているので学校での様子がよくわかってうれしいです。

【分析・今後の対応】

保護者の評価については昨年度よりも大きく下がる結果となった。コロナ禍において4～6月の間参観日を設けることができず、保護者が子どもの様子を見ることのできる機会が少なかったことも要因の一つとして考えられる。

情報発信の手段としては昨年度に引き続き、ホームページと「安心メール」(家庭数100%登録)を中心に、必要や伝えたい内容に応じて紙媒体も活用しながら行った。今後もその方法は継続していくが、より学校の様子が保護者に伝わるよう、ホームページの閲覧については工夫が必要に感じる。そこで、学校からの「安心メール」の文末にはホームページのURLを記載するようにし、保護者の閲覧アクセスがしやすいように進めていく。

【生活指導】

- ・家庭、地域、学校どこでも自分から進んで挨拶できる子どもを育てる。
- ・感染について正しく理解し、感染予防に努める子どもを育てる。

〈自律について〉

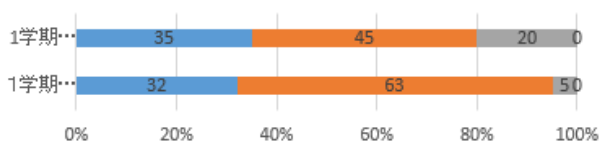
教職員 (問2) 児童が判断したり、決めたりする機会を増やしている。

保護者 (問2) 家庭で自分からやろうとすることが増えてきた。

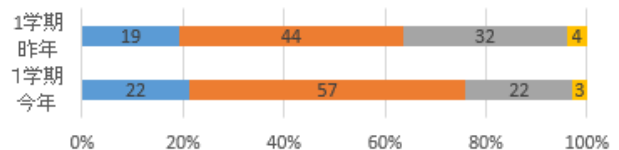
児童 (問1) 自分で考えて行動している。

			A	B	C	D		達成状況	
教職員	A: A+Bが90%以上 C: 上記以外	B: A+Bが60%以上	問2	32	63	5	0	A	A
保護者	A: A+Bが90%以上 C: 上記以外	B: A+Bが60%以上	問2	22	57	22	3	B	
児童	A: A+Bが90%以上 C: 上記以外	B: A+Bが60%以上	問1	47	42	8	3	B	

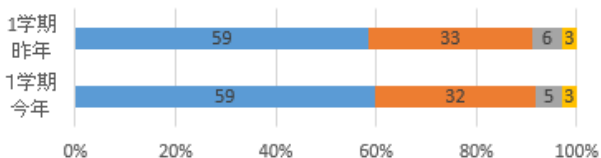
教職員(評価)選択・判断の機会の充実



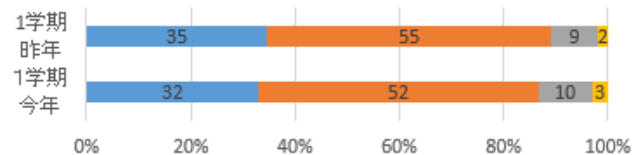
保護者(評価)自分からやろうとすることが増えた



低学年(評価)自分で考えて行動



高学年(評価)自分で考えて行動



【記述欄】

- ・自分でやろうという気持ちが少しですが、育っているように思います。2学期がこれからは楽しみです。

【分析・今後の対応】

教職員は、児童の自律心を高めるために、自己選択や自己決定をする機会を昨年度よりも、積極的に取り入れようとしていた。児童のアンケートからは、自分で考えて行動していると考えている児童は、低学年、高学年はともに昨年度と同程度で高い数値であり、自律した活動が定着しているように思われる。また、保護者の結果から、児童が家庭や地域において自分で考えて行動する姿が増えてきているという実態が見られ、自律に向けた指導が一定の効果を上げていていると考えられる。引き続き、児童が自発的に考え、行動する機会や場を設けるとともに、児童に肯定的な声かけをすることで、自分たちの成長を感じさせると共に、家庭とも連携しながら、児童が自律に向かう指導を進めていく必要がある。

〈挨拶について〉

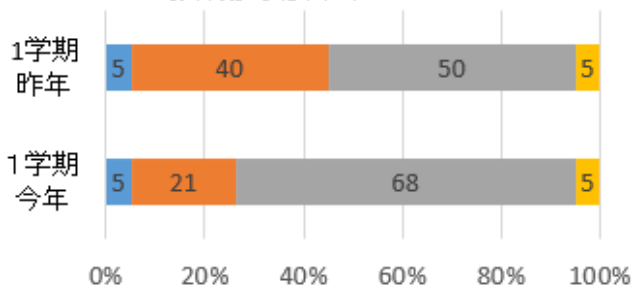
教職員 (問3) 子どもたちは、学校で挨拶をしている。

保護者 (問3) お子さんは、家でも、学校でも、地域でも、よく挨拶をしている。

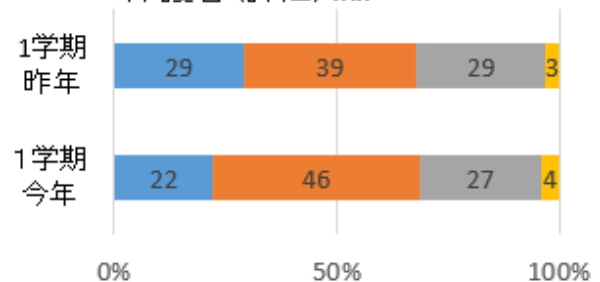
児童 (問2) 家でも学校でも地域でも、自分から進んであいさつをしている。

			A	B	C	D		達成状況	
教職員	A : A+B が 90% 以上 C : 上記以外	B : A+B が 60% 以上	問3	5	21	68	5	C	B
保護者	A : A+B が 90% 以上 C : 上記以外	B : A+B が 60% 以上	問3	22	46	27	4	B	
児童	A : A+B が 90% 以上 C : 上記以外	B : A+B が 60% 以上	問2	55	30	11	4	B	

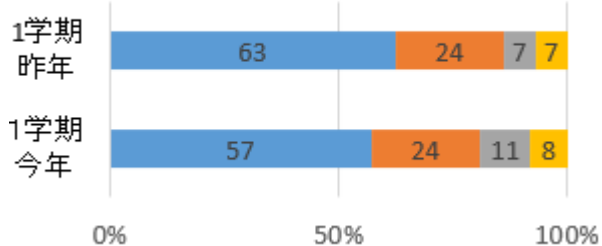
教職員(評価)挨拶



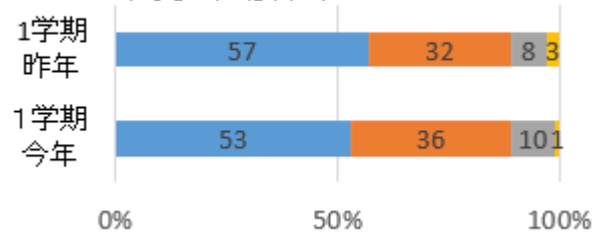
保護者(評価)挨拶



低学年(評価)挨拶



高学年(評価)挨拶



【記述欄】

- ・挨拶する子が減っている。
- ・立ち当番をしても挨拶をする子どもは少ないです。
- ・自分の子には挨拶する様言っていますが、実際挨拶する子は減っていてとても残念です。
- ・朝地区の子ども達と出会ってもほとんどの子が挨拶をしません。
- ・いぬいの所で交通当番をしている時、挨拶をしっかりできる子が少ないです。年々元気がない気がします。こちらから挨拶しても返ってこないことが多いです。元気に挨拶できるように取り組んでほしいです。
- ・挨拶は大きな声でできるといいのですが、なかなかです。親が手本になるよう親も気をつけたいと思います。

【分析・今後の対応】

教職員、保護者、児童のどの結果を見ても、自分から挨拶をすることについては、昨年度よりも A、B 評価が減少傾向にある。コロナ禍が続き、声を出すような指導や機会が減っていることも関係していると考えられる。昨年度から「自分から」「目をつないで」「いつでも」をキーワードに指導を進めているが、今後さらにどういう姿になってほしいのか、どういう姿が望ましいのか、あいさつをする目的などを児童に伝えていく指導を進めていくとともに、児童会や委員会と連携し、学校全体であいさつが活性化する取組を考えていきたい。また、PTAの挨拶運動と連携し、保護者にもあいさつについての啓発を行っていきたい。

【学習指導】

- ・聴き合い、対話し、学び合う学び」を通して、「わかった」「できた」と一人ひとりが実感し、学び続けようとする意欲を育てる。
- ・協働的な学びを通して、一人ひとりのよさや個性を認め合い、共に学び合う集団づくりに努める。

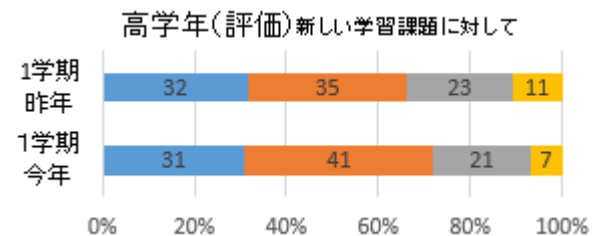
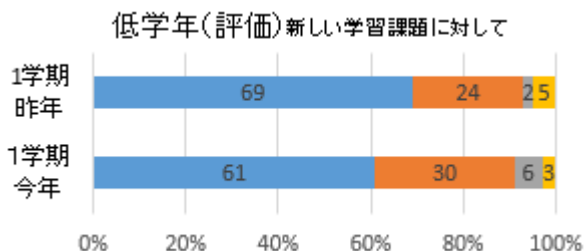
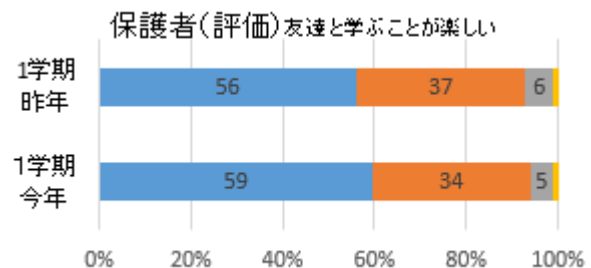
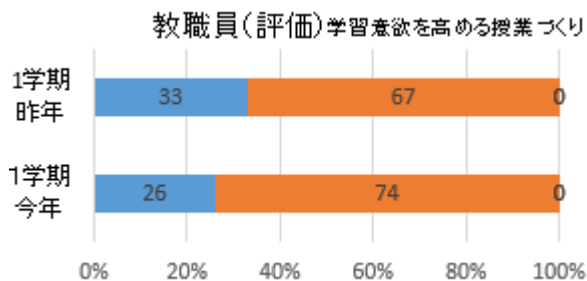
〈学ぶ意欲について〉

教職員 (項目4) 学習意欲を高める授業づくりに努めている。

保護者 (項目4) お子さんは、友だちと学ぶことを楽しんでいる。

児童 (項目3) 新しい課題、学習に取り組む時は楽しみだ。

			A	B	C	D		達成状況
教職員	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 70%以上	問 4	26	74	0	0	A
保護者	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 70%以上	問 4	59	34	5	1	A
児童	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 70%以上	問 3	46	36	14	5	B



【分析・今後の対応】

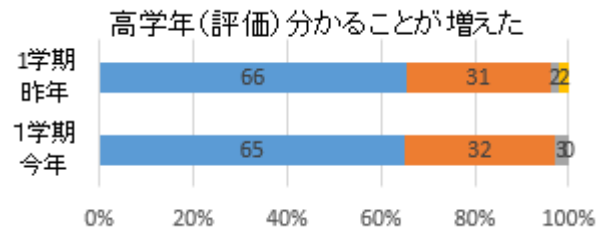
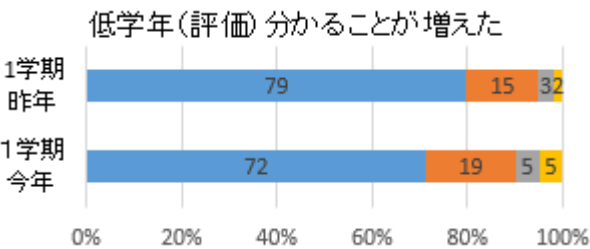
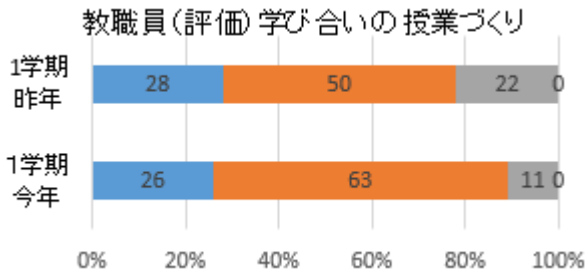
教職員は、学習意欲を高める授業づくりを意識して取り組んでいるが、児童の評価は今年度も評価 A + 評価 B は 80% に留まり、高学年になると評価 C、評価 D の割合が高くなる傾向が続いている。今後も授業づくりにおいて課題設定を工夫したり、より児童が主体的に課題解決に取り組めるよう学習場面を設定したりすることで、意欲や興味関心を高めていきたい。また、友だちと協働的に学習を進める機会をたくさん設けることで多様な考えに触れ、学びを深める経験を通して、互いの良さに気づいたり、共に解決する達成感を味わわせたりし、前向きに根気強く学習に取り組める児童の育成に努めたい。

〈分かった・できたの実感について〉

教職員 (項目5) 友だちの意見を聞いたり、考えを広げたりと、学び合いの授業づくりをしている。

児童 (項目4) 勉強をしていて、少しでも分かることやできることがふえてきた。

			A	B	C	D		達成状況	
教職員	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 70%以上	問5	26	63	11	0	B	A
児童	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 70%以上	問4	68	26	4	2	A	



【記述欄】

- ・勉強時間を増やすために、もっと宿題を増やしてほしいです。
- ・2年生になってから、学習面でも生活面でも伸びていると感じています。少しずつ自信がついてきているのもよくわかります。

【分析・今後の対応】

今年度も「勉強をしていて、少しでも分かることやできることが増えてきた」と答えた児童が評価 A+ 評価 B で 90%以上であった。教職員の結果についても評価 A+ 評価 B の割合が高まり、コロナ禍ではあるが、感染対策をとりながら学び合いを意識して授業づくりに取り組んでいることが分かる。教職員間での学び合いも大切にし、タブレット端末の有効な活用方法も含め、様々な学び合いの方法を模索し続け、児童の「わかった」「できた」につながる授業を目指していく。

【人権教育】

- ・学校・家庭生活における指導を通して、互いに人権を尊重し合い、自尊感情を育むように努める。
- ・児童への心のケアを通して、感染症の影響によるいじめ・差別・偏見等の啓発に努める。

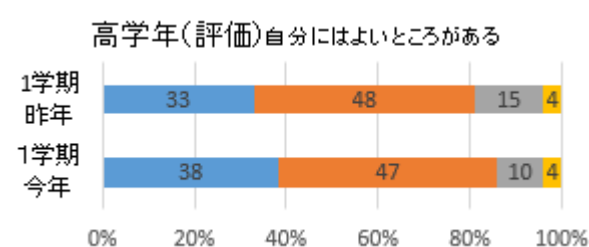
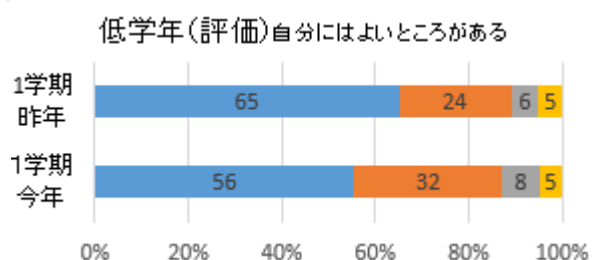
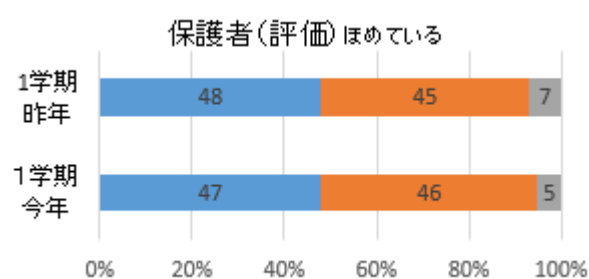
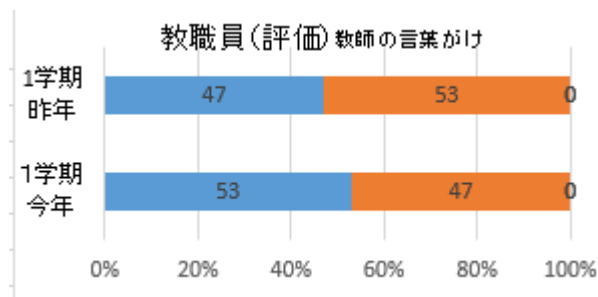
〈自尊感情について〉

教職員 (項目6) 子どもの伸びを認める言葉かけの質の向上に努めている。

保護者 (項目5) お子さんのがんばりやよいところをほめている。

児童 (項目5) 自分にはよいところがある。

			A	B	C	D		達成状況
教職員	A : A+B が 95%以上 C : 上記以外	B : A+B が 70%以上	問 6	53	47	0	0	A
保護者	A : A+B が 95%以上 C : 上記以外	B : A+B が 70%以上	問 5	47	46	5	0	B
児童	A : A+B が 95%以上 C : 上記以外	B : A+B が 70%以上	問 5	47	40	9	4	B



【分析・今後の対応】

子ども達の自尊感情を育て、愛着形成を図るために、学校や家庭では「ほめて伸ばす」取組を行っている。昨年同様、今年も子どもの伸びを認める言葉かけや質の向上に努めようとする意識が定着していると感じる。

低学年、高学年ともに「自分にはよいところがある」の問いに対して「あてはまる・どちらかといえばあてはまる」と評価している児童が8割以上いる。しかし、「あてはまらない・どちらかといえばあてはまらない」と評価した児童が1割ほどあり、その児童の内面に寄り添うことが必要であると考え。

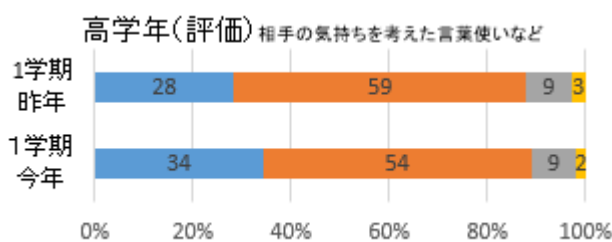
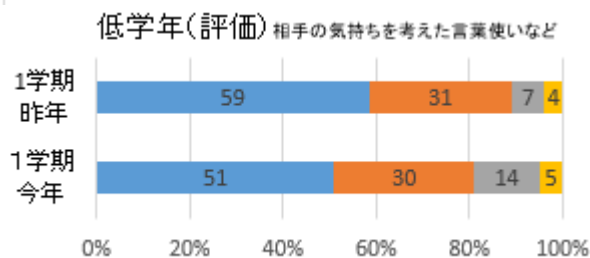
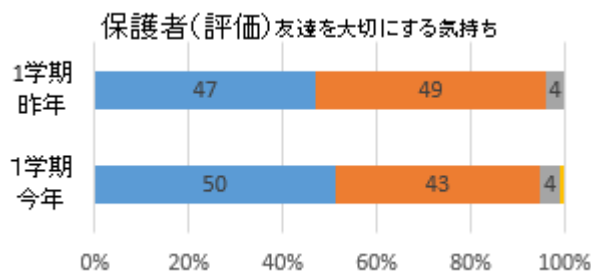
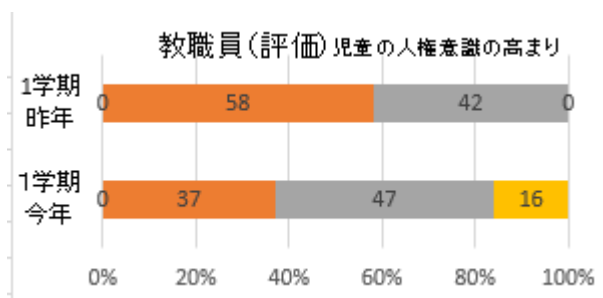
自分を認めてもらえる場所や人が存在することで、自尊感情が高まり、愛着が形成されるともいわれている。学校では、児童の頑張りを認めたり、一人一人に合った声掛けをしたりして安心安全な学校づくり学級づくりを継続していきたい。また、家庭へは「だっこ・おんぶ」の宿題を出すことで、親子のスキンシップができ、子ども達の気持ちが安定し、さらには、学校生活を落ち着いて過ごすことができるのではないかと考え、協力を呼び掛けている。

高学年は、「あてはまる・どちらかといえばあてはまる」の評価が増えている。自分が頑張っていることや自分の良さを自分で意識できていると考える。複数学年複数担任制のため、昨年度と引き続き指導する教師が多く、教師との信頼関係ができてきている結果ではないかと考える。2学期は学校行事などで活躍の場が増える。一人一人を認め、伸ばすための声掛けをしながら、児童の様子を積極的に家庭に伝え、その頑張りを家庭でも褒めてもらい、さらに自尊感情が高まることを期待している。

〈人権意識について〉

- 教職員** (項目7) 児童の人権感覚や人権意識が育ってきている。
- 保護者** (項目6) お子さんは、友だちを大切にすることが育ってきている。
- 児童** (項目6) 相手の気持ちを考えた行動、声かけ、言葉づかいができています。

			A	B	C	D		達成状況
教職員	A : A+Bが95%以上 C : 上記以外	問7	0	37	47	16	C	B
保護者	A : A+Bが95%以上 C : 上記以外	問6	50	43	4	1	B	
児童	A : A+Bが95%以上 C : 上記以外	問6	43	42	11	4	B	



【記述欄】

- ・少し前までは「Aくんにたたかれた。」等自らのことを相談して来ることが多かったのですが、最近は「BくんがAくんになかされとっちゃった。」とお友達のことを話してくることが多いです。Aくんは同じ子ですので、いつも気になっており「なんでAくんそんなことしてんかなあ。」と家族で話しています。人がいやがっていたり、泣かされたりの話がなくなればいいなあと思います。
- ・見ていないため分かりませんが、本人も何とも思っていないため良いのかどうかですが服に足あとのような泥が付いていたりして帰ってきたことがあり本人に聞くと上の子が蹴ってきたと言っていました。登下校中の対策して下さったりしてくれましたのですが、どうなったのか改善したのか分かりません。本人も気にしてないので良いと思いますが足あとの泥がついていたりすると親としてやや心配な所もあります。
- ・何かと乱暴な子がいるようで、休み時間にトイレまでついてきて何度もけられるなどされているようです。相手にしないようにしているらしいのですが、何度も同じようなことがあるようです。学校自体は楽しく通っています。
- ・学年の友達関係、家庭教育など話し合う機会があることが望ましい。
- ・また低学年でも言葉使いがとてもきつく怖い子どもがいます。

【分析・今後の対応】

1学期、低学年においては、8割の児童が相手の気持ちを考えた行動、声かけ、言葉づかいができていて概ね達成していると思われるが、児童の中には、友だちに暴力をふるったり、言葉で相手を傷つけたりする児童もいる。その背景として、自分の気持ちを上手く表現できなかったり、勘違いをして怒ったり、正義感が強く注意しようとしたことが逆に友だちを傷つけてしまったりといろいろな場合がある。そのような児童には、その場に応じた声かけを行ったり、話を聞いて児童の思いをくみ取ったりして、行動面だけで判断するのではなくその児童の内面や原因、そこに至るまでの過程を理解するようにしてきた。また、保護者とも連携をとり、共通理解を図りながら対応にあたってきた。今後も全職員で共通理解して対応にあたるとともに、外部の機関とも連携を取りながら、児童の発達に応じた方法を模索していきたい。

さらに、全学年を通して、友だちの名前を呼び捨てにしていることが、気になる。2学期からの学校全般において、人を大切にするためには、まず名前から大事にしようとすることを伝えていきたい。また、生活科・人権総合学習の中で、人権を大切にすることを学習を深めていき、人権参観日や人権総合発表会で、保護者に啓発していきたい。

【複数学年複数担任制】

【記述欄】

- ・誰に相談したらよいのか分からない。担任が変わるのは、子どもの小さな変化が分かりづらいと思う。出来る子はよいが、出来ない子は誰がフォロー どの様な形なのか分かりづらい。自分からやろうとする力をうまく出せてない子はとりのこされている様に感じる。もっと細かな所をフォローしてほしいです。(懇談でできない所はどうしたらよいかと問うと、どうしたらいいんですかね〜？とこちらに振られて不安になった。預けるのが心配になった。)
- ・複数担任制では、中学校のようにホームルーム担任は固定された方がいいのかなと思います。
- ・何か伝えたいことがある時に、どの先生に伝えればよいかわからない。複数担任制だと一人一人の生徒をじっくり見てもらえないと思う。ホームルーム担任もころころかわるので、懇談会で学校での子どものようなすをたずねても「~のようです」と「(実際見てないが)他の先生からきいてる」というふうにあいまいで困る。やはり複数担任ではなく1クラス1担任で1年を通して子どもとじっくり向きあってほしいです。複数担任制は反対です！！でも先生方を守るためにこの制度をされているのならこのままでいいです。
- ・複数でみていただいているので、子どもの良い所、育っているところをよくみていただいていると思う。
- ・複数担任制については子どもにとっては過ごしやすいようで、いろいろな先生の授業を楽しんでいるようです。子ども達の自主・自律を育むという教育方針には共感できますし、主体的な活動を大切に下さっていることは、大変ありがたく思います。ただ、子どもに任せながらも先生には一人ひとりの様子をよく見て頂いて、最後まで自分の力でやり遂げられるよう、手立てを工夫したり、環境を整えたり…ということも気にかけて頂けると嬉しいです。いつもお世話になり、ありがとうございます。

【分析・今後の対応】

教科担任制を取り入れたことで子どもたちが自分の力で取り組もうとする力を伸ばしたり、学習に対しても意欲的に取り組む姿が見られたりしている。また、昨年度実施ができなかった4月の個別懇談会において、保護者の方と年度初めに顔つなぎの機会を設けることができた。どの家庭にも懇談を担当した教師が今後の窓口になることを伝え、設置したホームルーム（以下、HR）担任が変わっても「誰に相談すればよいかわからない。」という保護者の不安を軽減できるように努めた。しかし、昨年度に引き続き固定の学級担任がないことへの不安を感じておられる保護者もおられる。また、そういった不安や戸惑いを抱えておられる保護者は4年生児童の保護者に特に多かった。6人全員が担任であるというこの制度の仕組みが明確に伝わっていない人もいたり、3、4年の担任制度の過渡期において丁寧な接続が十分にできていないことの表れではないかと思われる。

保護者の方の「個別に子どもを見てほしい。」という丁寧なフォローを必要とされている思いを受け止め、今後はその不安を取り除くことができるよう、昨年度に引き続き、HR担任が変更した場合には、メールで保護者に児童の様子を合わせて知らせていく。また、子どもたちの良いことやその日あった出来事については連絡帳や電話などで保護者の方へ連絡を取ったり、毎日、担任団で子ども達の情報共有を行ったりするようにしていくようにし、家庭との連携を図りながら丁寧な支援体制を取ることができるようにしていく。子ども達には複数で子ども達の姿を見とることができる点をいかし、良さや課題、様子についての情報共有を行いながら、適切なフォローができるように努めていく。子ども達の自律を促していけるような支援を図っていけるように職員チームとして今後も取り組む。

【その他】

【記述欄】

- ・下校時に、信号が変わる点滅時や、まだ赤なのにもうすぐ青になりそうって時から歩き出す子をみます。歩道の真ん中で立ち止まってふざける子など、とても危ないので心配になりました。
- ・あまりお友達と遊ぶことなく家で兄弟と遊ぶことが多いのが少し気になります。学校でのことはあまり話さないです。不満は言わないので楽しく過ごしていたらいいなあと思います。
- ・いつも感謝しております。ありがとうございます。
- ・いつもありがとうございます。これからもお世話になりますが、よろしくお願いします。
- ・色々な取り組みをして頂き、感謝しています。
- ・自然学校5日間が無事に終わって、とても良かったです。バスでのトイレ休憩等よく考えていただけて、本当にありがとうございました。コロナ禍で制限が多くある中、いろいろ工夫していただき感謝しています。今後ともよろしくお願いします。